

第1章 図版

表 1-1 千々岩助太郎年譜

西暦	和暦	年齢	学業官職賞罰 (当該官衛等)	研究調査活動等
1897		0	0925: 佐賀県にて誕生	
1904	明治	7	0401: 佐賀県三養基郡鳥栖尋常高等小学校尋常科に入学	
1910		13	0325: 佐賀県三養基郡鳥栖尋常高等小学校尋常科を卒業 0401: 佐賀県三養基郡鳥栖尋常高等小学校高等科に入学	
1912		15	0325: 佐賀県三養基郡鳥栖尋常高等小学校高等科を卒業 1201: 九州鉄道局教習所電信科に入学	
1913		16	0531: 九州鉄道局教習所電信科を卒業 0601: 九州鉄道局鳥栖駅電信掛任命	
1916		19	3月: 九州鉄道局鳥栖駅電信掛退職 0401: 佐賀県神崎町私立神陽学館第2学年に入学 0901: 東京都私立赤坂中学校第2学年に転入	
1917		20	0325: 東京都私立赤坂中学校第2学年を修了 0401: 東京都私立正則中学校第4学年に編入	
1919	大正	22	0315: 東京都私立正則中学校を卒業 0408: 名古屋高等工業学校建築科に入学	
1922		25	0315: 名古屋高等工業学校建築科を卒業 0415: 広島県立工業学校教諭 (広島県)	
1923		26	0907: 宮崎県へ出向を命ず (広島県) 0913: 宮崎県立宮崎工業学校教諭 (宮崎県)	
1924		27	0401: 愛知県へ出向を命ず (宮崎県) 0410: 名古屋市立工芸学校教諭 (愛知県)	
1925		28	0415: 台北州へ出向を命ず (愛知県) 0422: 台湾公立実業学校教諭 (内閣) / 補台北州立台北工業学校教諭 (昭和16年6月17日まで) (台湾総督府)	
1928		31	1116: 大禮記念章を授与 (賞勳局)	
1929		30		・台湾建築会入会
1930		33		・台湾山岳会入会
1934		37		・大武山・霧頭山縦走の際にパイワン族の住居を見て、住居研究を思い立つ
1935		38		・台湾原住民の住居調査を始める?
1936		39		・日本学術振興会に「台湾高砂族住家の研究」として申請、採択され、数期にわたって援助を受ける ・1936年末～1937年始、パイワン族の長期調査
1937		40		・4月: ヤミ族の住居調査1回目 (8日間滞在) ・4月: 東京帝国大学藤島亥次郎教授と共にアタヤル族ウライ社の住居調査 ・台湾原住民住居に関する最初の研究報告『台湾高砂族住家の研究 第1報』を発表
1938		41		・1月: プヌン族タマホ社の住居調査
1939		42	0923: 叙勲6等授瑞宝章 (賞勳局)	
1940		43	0205: 台北州立台北工業学校校長事務取扱 (台湾総督府) 0406: 台北州立台北工業学校校長事務取扱を免ず (台湾総督府)	・ヤミ族の住居調査2回目 (天候により滞在日数は40日間、住居の改造期に遭遇)
1941	昭和	44	0617: 依頼免本官 (台北州立台北工業学校退職) (内閣) 0618: 台湾南方協会調査に関する一時囑託 (台湾南方協会) 0731: 総督官房管繕課勤務 (兼務) (台湾総督府) 1130: 本館調査事務を囑託 (財団法人南方資料館)	・1941年末～1942年始: パイワン族の住居調査 (バジヨロ社、ピララウ社、トゴゴ社)
1942		45	0630: 願に依り囑託を解く (財団法人南方資料館) 0831: 台湾総督府台北高等学校講師を囑託 (国学担当) (兼務) (台湾総督府台北高等学校) 0918: 総督官房管繕課勤務 (本務) (台湾総督府)	・2月: 1940年9月末の台風によって倒壊した、アミ族太巴ロン社巫女カキタンの住居を学租財団の依頼を受けて千々岩の実測図面を基に復原した
1943		46	0809: 御用済に付囑託を解く (台湾総督府) 0809: 願に依り講師囑託を解く (台湾総督府台北高等学校) 0810: 台湾総督府台南高等工業学校教授 (昭和22年6月7日まで) (内閣) [台湾総督府台南工業専門学校、台湾省立台南工業専科学校、国立成功大学の前身]	・「台湾高砂族住家の研究 第5報」において原住民住居研究は一応の終了をみる ・丸善株式会社と「台湾高砂族の住家」の出版契約 (出版直前に戦災により焼失、1960年になってようやく出版される)
1944		47	0401: 台湾総督府台南工業専門学校教授 (台湾総督府台南工業専門学校)	・パイワン族ボンガリ社の住居調査
1945		48	0309: 台湾総督府台南工業専門学校建築科長 (台湾総督府台南工業専門学校) 1030: 叙勲5等授瑞宝章 (賞勳局)	
1946		49	0201: 台湾省立台南工業専科学校に徴用、同校教授、建築科代理主任 (学校長: 王石安) 1001: 台湾省立工学院 (単科大学) に昇格、同院教授建築工學系代理主任 (学校長: 王石安)	
1947		50	0428: 徴用を解除 0508: 帰国する (佐世保港上陸) 0607: 昭和21年勅令第287号に依り退官する 0925: 広島市立工業専門学校教務事務を囑託 (広島市立工業専門学校) 1031: 広島市立工業専門学校講師を囑託 (広島市立工業専門学校)	

西暦	和暦	年齢	学業官職賞罰（当該官衛等）	研究調査活動等
1948	昭和	23	51	0229：願に依り講師嘱託を解く（広島市立工業専門学校） 0331：文部事務官兼文部技官（文部省） ：文部省教育施設局高松出張所勤務（文部省） ：文部省教育施設局高松出張所施設課長（文部省） 0812：文部技官に任命する（文部省）
1949		24	52	0601：文部省教育施設部高松出張所施設課長（文部省） 昭和24年10月～昭和27年1月：日本建築学会四国支部長
1950		25	53	0331：管理局勤務を命ずる（文部省） ：文部省教育施設部高松工事事務所長（～昭和27年2月1日まで）（文部省） 0531：徳島大学施設課長兼職（文部省） 0930：徳島大学施設課長兼職を解く（文部省）
1951		26	54	0305：建築士法に依り1級建築士に合格 0702：国立大学施設計画設定会委員（文部省）
1952		27	55	0201：文部省教育施設部福岡工事事務所長（～昭和36年3月1日まで）（本職）（文部大臣） 0221：一級建築士免許証交付（登録番号第11910号）
1953		28	56	0818：昭和28年度町村教育委員会教育長講習講師に併任（～同年10月11日まで）（福岡学芸大学長）
1956		31	59	1016：熊本大学工学部講師に併任（～昭和32年3月31日まで）（熊本大学長）
1957		32	60	0601：熊本大学工学部講師に併任（～昭和33年3月31日まで）（熊本大学長）
1958		33	61	0501：熊本大学工学部講師に併任（～昭和34年3月31日まで）（熊本大学長）
1959		34	62	0501：九州大学施設課長に併任（文部大臣） 0630：建築委員会委員（九州大学長）
1961		36	64	0301：九州大学施設課長の併任を解除／熊本大学工学部教授に配置換え（文部大臣） ：熊本大学教授 工学部建築学科勤務（熊本大学長）
1962		37	65	0331：工学博士学位記授与（論文台湾高砂族住家の研究）（九州大学） 0401：熊本大学教授 工学部建築学科主任（熊本大学工学部長）
1963		38	66	0401：昭和38年3月31日限り停年により退職（文部大臣） 0501：熊本大学工学部講師（～昭和39年3月31日まで）（熊本大学長） 0901：九州産業大学工学部教授を嘱託（中村産業学園長）
1964		39	67	0401：九州産業大学工学部教授を嘱託（中村産業学園長） ：九州産業大学工学部建築学科主任（中村産業学園長） 0507：一級建築士事務所千々岩教育施設研究所設立（登録番号第732号） 1001：九州産業大学工学部長（～昭和45年3月31日まで）（中村産業学園長）
1968		43	71	1210：九州産業大学学長代行（中村産業学園長） ：九州産業大学工学部建築学科主任を免ずる（中村産業学園長） 昭和43年（月日不明）～同年12月31日：日本建築学会九州支部長
1969		44	72	1015：願により九州産業大学学長代行・工学部長・工学部教授を免ずる（中村産業学園長） 10月：九州産業大学工学部講師
1970		45	73	0301：大分工業大学教授（佐伯学園理事長） 4月：読売理工学院九州理工専門学校教授 0410：大分工業大学建築学科主任（佐伯学園理事長） 0411：大分工業大学工学部長（佐伯学園理事長） 0731：願に依り大分工業大学退職（佐伯学園理事長）
1971		46	74	0601：西日本工業大学講師
1973		48	76	0401：東和大学工学部教授、東和大学工学部長、建設工学科建築学専攻主任（福田学園理事長）
1982		57	85	3月：東和大学退職 4月：東和大学名誉教授 以後、職歴なし
1991	平成	3	94	逝去（享年95）

注1：「学業官職賞罰（当該官衛等）」については、千々岩助太郎の自宅に残された資料のうち書棚2-棚（表2-1）に保管されていた箱ファイル「履歴書、免状、辞令、登録」内に納められていた資料を用いた。

注2：研究活動等については、主な事柄のみを取り上げており、千々岩の図面資料に記載されている調査日付および以下に掲げる文献を参考にした。

千々岩助太郎「紅頭嶼に於ける高砂族住家の研究」（『建築学会論文集』、1941）、同「紅頭嶼（2）」（『台湾建築会誌』第15輯第3号、1943）、同『台湾高砂族の住家』（1960）、同『台湾高砂族住家の研究』（九州大学学位論文、1962）、同『思い出の山々』（1977）。

第1章 図版

表 1-2 千々岩助太郎著作目録 (全 62 点)

- 1931.5 「構造力学」『台湾建築会誌』第3輯第3号、台湾建築会、pp.1-8、台北
- 1931.11 「構造力学(第二講)」『台湾建築会誌』第3輯第6号、台湾建築会、pp.35-46、台北
- 1933.11 「畢祿山・中央尖山・南湖大山」『台湾山岳』第7号、台湾山岳会、pp.147-160、台北
- 1934 「建築学会大会の印象と台湾建築会に対する希望」『台湾建築会誌』第6輯第4号、台湾建築会、pp.204-208、台北
- 1934 「飾窓裝飾競技会に於ける考察」『台湾建築会誌』第6輯第6号、台湾建築会、pp.328-333、台北
- 1935 「台湾中部地震に於ける建築物の被害に就て」『台湾建築会誌』第7輯第3号、台湾建築会、pp.135-156、台北
- 1936.1 「島内見学旅行」『台湾建築会誌』第8輯第1号、台湾建築会、pp.48-54、台北
- 1936.6(編) 『台湾山岳』第8号、台湾山岳会、台北
- 1936.6 「関山」『台湾山岳』第8号、台湾山岳会、pp.61-70、台北
- 1937.6 『台湾高砂族住家の研究 第1報』台湾建築会、台北
- 1938.2(編) 『台湾山岳』第9号、台湾山岳会、台北
- 1938.2 「秀姑巒山・ウラモン山・丹大山縦走」『台湾山岳』第9号、台湾山岳会、pp.57-78、台北
- 1938.2(千々岩助太郎/田口興四郎) 「大武山・霧頭山縦走」『台湾山岳』第9号、台湾山岳会、pp.79-88、台北
- 1938.2 「登山コース及び登山の注意」『台湾山岳』第9号、台湾山岳会、pp.120-125、台北
- 1938.3 「南台湾に於ける高砂族住家の研究(梗概)」『建築雑誌』第52輯第636号、建築学会、pp.325-326
- 1938.4 「南台湾に於ける高砂族住家の研究」『建築学会論文集』第9号、建築学会、pp.243-250
- 1938 「台湾高砂族住家の研究 第2報(第3編ブヌ族の建築)」『台湾建築会誌』第10輯第3号、台湾建築会、pp.139-190、台北
- 1938.12 『台湾高砂族住家の研究 第2報』台湾建築会、台北
- 1939.3(編) 『台湾山岳』第10号、台湾山岳会、台北
- 1939.3 「□菜主山連峰を往く」『台湾山岳』第10号、台湾山岳会、pp.12-13、台北
- 1939.3 「台湾に於ける登山の特異性」『台湾山岳』第10号、台湾山岳会、pp.146-149、台北
- 1939.5 「南台湾に於ける高砂族住家の研究(高砂族瞥見)」『台湾時報』第234号、台湾総督府内台湾時報発行所、pp.38-51、台北
- 1939 「台湾高砂族住家の研究 第2報の続(第4編ツオウ族)」『台湾建築会誌』第11輯第1号、台湾建築会、pp.2-33、台北
- 1941.3 「紅頭嶼に於ける高砂族住家の研究(梗概)」『建築雑誌』第55輯第672号、建築学会、pp.164-165
- 1941.4 「紅頭嶼に於ける高砂族住家の研究」『建築学会論文集』第21号、建築学会、pp.25-33
- 1941.6 「台湾高砂族住家の研究 第3報(第5編ヤミ族の建築)」『台湾建築会誌』第13輯第1号、台湾建築会、pp.1-68、台北
- 1941.12 「台湾高砂族住家の研究 第4報(第6編アタヤル族の住家)」『台湾建築会誌』第13輯第5号、台湾建築会、pp.335-374、台北
- 1942.1 「台湾高砂族住家の研究 第4報の続(第6編アタヤル族の住家)」『台湾建築会誌』第13輯第5号の後別冊、台湾建築会、pp.421-550、台北
- 1942.6 「南方住宅雑考」『台湾時報』第270号、台湾総督府内台湾時報発行所、pp.68-70、台北
- 1942.11 『南方に於ける土俗建築(台湾総督府外事部調査第89(技術部門第2及文化部門第2))』、台湾総督府外事部、台北
- 1942.11 『熱帯建築計画汎論(台湾総督府外事部調査第90(技術部門第3及文化部門第3))』台湾総督府外事部、台北
- 1942 「南方共栄圏地誌(1)」『台湾建築会誌』第14輯第1号、台湾建築会、pp.46-78、台北
- 1943.1 「台湾高砂族住家の研究 第5報(第7編サイシャット族の住家、第8編アミ族の住家、補遺-第2編パイワン族の住家、後記)」『台湾建築会誌』第14輯第5号、台湾建築会、pp.0-18,19-58,59-66,67、台北
- 1943 「紅頭嶼(1)」『台湾建築会誌』第15輯第2号、台湾建築会、pp.68-75、台北

- 1943 「紅頭嶼(2)」『台湾建築会誌』第15輯第3号、台湾建築会、pp.117-121、台北
- 1943 「台湾の寺廟建築(第1報)」『台湾建築会誌』第15輯第5.6(合併)号、台湾建築会、pp.175-211、台北
- 1950.8 「台湾高砂族住家の研究 第3報アタル族の住家」『日本建築学会研究報告』第7号、日本建築学会、pp.193-196
- 1951.6 「台湾高砂族住家の研究 第4報サイシャット族」『日本建築学会研究報告』第12号、日本建築学会、pp.37-40
- 1951.11 「台湾高砂族住家の研究 第5報アミ族」『日本建築学会研究報告』第15号、日本建築学会、pp.79-82
- 1952.5 「台湾高砂族住家の研究 第6報附属構造物」『日本建築学会研究報告』第18号、日本建築学会、pp.165-166
- 1952.10 「台湾高砂族住家の研究 第7報住家形式に依る分類及びその分布」『日本建築学会研究報告』第20号、日本建築学会、pp.187-188
- 1954.5 「台湾に於ける漢民族の住家」『日本建築学会研究報告』第27号、日本建築学会、pp.329-330
- 1959.5 「台湾の寺廟建築」『日本建築学会研究報告』第47号、日本建築学会、pp.113-117
- 1960 『台湾高砂族の住家』丸善
- 1961.10 「肥後五家荘の民家 第1報平面の古形式」『日本建築学会研究報告』第60号、日本建築学会、pp.227-237
- 1962 『台湾高砂族住家の研究(主論文第1部・主論文第2部民家学的考察)』九州大学学位論文
- 1962.2 「学術講演会・概要(5039-5051)ー眼鏡橋の研究について」『建築雑誌』第77輯第908号、日本建築学会、p.108
- 1962.2 「肥後五家荘の民家 第1報平面の古形式」『日本建築学会研究報告(九州支部)』第11号、日本建築学会九州支部、pp.227-237
- 1962.3 「台湾高砂族住家の研究 第2部民家学的考察」『熊本大学工学部研究報告』第11巻第1号、熊本大学工学部、pp.28-51、熊本
- 1962.9 「台湾高砂族住家の研究(学位論文要旨)」『建築雑誌』第77輯第917号、日本建築学会、pp. p.265
- 1963.2 「農業構造改善に伴う農村施設の研究 第1報熊本県玉名郡菊水町江田地区」『日本建築学会研究報告(九州支部)』第12号、日本建築学会九州支部、pp.111-113
- 1963.11 「農業構造改善ともなう農村施設の研究 第1報熊本県玉名郡菊水町江田地区(支部研究発表論文梗概)」『建築雑誌』第78輯第933号、日本建築学会、p.397
- 1964.12 「発刊のことば」『九州産業大学工学会誌』第1号、九州産業大学工学部、巻頭言、福岡
- 1964.12 「工学部施設総合計画について」『九州産業大学工学会誌』第1号、九州産業大学工学部、pp.53-62、福岡
- 1965.2 「台湾高砂族住家の研究 第8報中華民国へ復帰後の変貌」『日本建築学会研究報告(九州支部)』第14号、日本建築学会九州支部、pp.63-69
- 1966.3 「肥後五家荘の民家 第2報生活環境について」『九州産業大学工学部研究報告』第3号、九州産業大学工学部、pp.29-39、福岡
- 1966.3 「琉球紀行」『九州産業大学工学会誌』第3号、九州産業大学工学会、pp.1-25、福岡
- 1974.11 「高砂族住居研究の思い出」『えとのす』第1号、新日本教育図書株式会社、pp.27-31
- 1977.3 『思い出の山々』私家版、福岡
- 1977.3 「素晴らしい台湾の山旅ー雄大なスケール・美しい眺望・生物学研究の宝庫ー」『日華グラフ』第2号(4月号)、九州企画出版社、pp.6-7、福岡
- 1981.7 「建築学科創立当時の思い出」『台南高等工業学校五十年の歩み』開校50周年記念事業企画委員会、pp.108-109
- 1988.6 『台湾高砂族の住家』(復刻版)、南天書局、台北